

親子の共同発達として捉えた 子どもの自己制御機能 (9)

— 2 歳台の子どもの自己主張の多様性—

○高橋 登 (大阪教育大学)
渡辺忠温 (東京理科大学)

竹尾和子 (東京理科大学)
渡部朗代 (白百合女子大学大学院)

キーワード：自己制御，幼児，親子関係

目 的

乳児期から幼児期にかけての子どもの自己制御（自己主張・自己抑制）は，子どもの発達および子育ての重要な側面である。近年の研究では，子どものスキルや能力としての自己制御の発達という観点から，母子間の双方向的な影響関係の中で進行する自己制御の共同発達という側面に注目されるようになってきている（竹尾・渡辺・渡部，2015）。本研究では，母親の語りに見られる子どもの自己主張行動の多様性についてインタビューデータをもとに検討する。

方 法

【調査対象者・調査方法】7 組の母子（男児 4，女児 3）に対し，1.5 ヶ月に 1 回家庭訪問を行い，母親へのインタビューと母子への実験を縦断的に実施した。本研究では，2 歳 0 ヶ月から 2 歳 11 ヶ月の期間のインタビューの分析結果について報告する。

【分析方法】母親による語りの内容に対しコーディングを行った。具体的には，まず，6 つの分析テーマを設定し，語りの中の意味的まとまり（以下「話題」）に対し，上記の分析テーマごとに語りを詳細・具体的に記述可能なコードをボトムアップに設定した（下位カテゴリー）。下位カテゴリーを包括的に扱う上位概念（上位カテゴリー）をまとめ，そのうえで母親の語りの内容が持つ複数の側面について上位カテゴリーに基づいて分類した（語りの側面）。本発表では分析テーマのうち「子どもの自己主張の多様性」について分析と考察を行う。

結果・考察

最初にコーディング結果をまとめた。母親によるこの時期の子どもの自己主張的行動についての語りには，大きく分けて「自己主張の手段」，「自己主張の目的・内容」，「他者との関係のあり方」，「情動の表出」という 4 側面が存在する。「自己主張の手段」は，自己主張がどのようなコミュニケーションの手段や方法によって表出されるかという側面である。言語的な発達が未熟なこの時期の子どもにとって，言葉による自己主張はまだ少ない（話題数：16。以下，かっこの中の数字は話題数を示す）。それに対し「初期コミュニケーション的」，「動作性」はそれぞれ 74 と 47 であり，非常に多い。次に，「自己主張の目的・内容」の側面で多いのは「主体的行動へのこだわり」である（43）。これは，た

えば時間的余裕がない中で，母親が靴ひもを結んだところ，一回脱いで最初から靴ひもを自分で結びなおすといったように，他者ではなく「自分が」その行為を行うことにこだわって自己主張を行う場合である。また，それについて多いのが「行動の志向性へのこだわり（17）」，「他者への愛着を伴う自己主張（14）」，「所有をめぐる自己主張（13）」である。「他者との関係のあり方」については，「相手の意図の否定・拒否」および「相手の意図との衝突・対立」の 2 つの行動が多く見られた。さらに，単に子どもが情動を表出している場合も自己主張として母親に受け止められていた（「情動の表出」）。対象児によって細かな違いはあるものの，全体として見ると，母親の語りに見られる子どもの自己主張的行動は，どの対象児も「初期コミュニケーション的自己主張」，「動作性自己主張」，「主体的行動へのこだわり」の 3 カテゴリーが他よりも明らかに多かった。

表 子どもの自己主張的行動についての話題数

語りの側面	上位カテゴリー	定義	計
自己主張の手段	初期コミュニケーション的自己主張	言葉が十分に発達する以前の、未熟なコミュニケーションの方法で子どもが自己主張している場合。	74
	動作性自己主張	言葉を使わず、行動による自己主張が行われている場合。	47
	言語性自己主張	言葉を使った自己主張の場合。	16
	他者からの「察し」誘導型自己主張	直接的な自己主張ではなく、相手から察してもらうことで自分の気持ちを理解させようとする自己主張の場合。	3
自己主張の目的・内容	主体的行動へのこだわり	子どもが「自分で」何らかの行動を行うことにこだわっている場合。	43
	行動の志向性へのこだわり	子どもが自分の行動上のこだわりや好みを自己主張していると語られている場合。	17
	他者への愛着を伴う自己主張	他者への愛着が自己主張となって表れている場合。	14
	所有をめぐる自己主張	物の所有に関連して子どもが自己主張を行う場合。	13
	自己顕示・注意誘導型自己主張	自らの能力やかっこよさなどをひけらかす場合や自分に注意を向けさせようとしている場合。	8
他者との関係のあり方	物への執着・物の好み	子どもが特定の物や物の種類に対してこだわりや好みを示している場合。	7
	相手の意図の否定・拒否	親の指示を受け入れていない行動をとる（もしくは指示通りの行動を行おうとしない）ことによって自己主張を行っている場合。	26
	相手の意図との衝突・対立	母親の指示とは逆の行動をすることによって自己主張を行っている場合。	16
	競争・ケンカ	他者との対立状況の中でも、ものごとをめぐって競争やけんかが起きている場合。	4
情動の表出	情動的自己主張	情動表出を子どもが行うことで、それが母親に自己主張として語られている場合。	2